

我が社のイチ推し！



株式会社サンリブ（福岡県北九州市）

九州・山口・広島に地域密着型スーパーマーケットを展開
お客様と従業員に寄り添い、買い物支援等を通じ社会貢献



サンリブ折尾外観

成長と挑戦を重ねながら地域とともに歩んできた 80 年

北九州市を中心に福岡県全域、大分県、熊本県、宮崎県、佐賀県、そして山口県、広島県まで現在 119 店舗（2026 年 4 月末現在）を展開するサンリブ。1947 年に「別府漬物佃煮有限会社」として創業者 6 名による力なきもの同士が協同と団結し、成長を続けながら 2027 年で 80 周年を迎える。

店舗形態は食品・衣料品・日用雑貨・書籍などを扱う 1,000～3,000㎡の中規模店舗「マルショック」が最も多く、専門店（テナント）を加えた 5,000㎡以上の大型店舗「サンリブ」が続く。2005 年に開店した「サンリブシティ小倉」（北九州市小倉南区葛原）は専門店のほか、カルチャーセンター、飲食ゾーンなどを併設し、再開発エリアも含めた 20,000㎡超のゾーン型大規模ショッピングセンターとして地域に根付いている。

2022 年には、鮮度や健康等にこだわった高付加価値商品を揃える「サンリブ BUONO」を福岡市にオープン。さらに 2023 年からは、“鮮度と価格を W で応援”する新ディスカウント業態「リブホール」を展開し、既存店の新築建替やリニューアルを通じて転換を進めている。2024 年 7 月には、利便性の高い小型店舗ニーズに応えるべく、コンビニとスーパーのハイブリッド型店舗「ローソンマルショック」を大分市に開店。売場面積は通常のローソンの約 2 倍となる約 280㎡で、約 5,300 品目のうち 2,300 品目程度をマルショックが担う。

移動スーパー展開など多様な買い物スタイルの提供により地域の暮らしを支える

サンリブは、時代のニーズや地域特性などに合わせて出店を進め、合併や再編を経ながら発展してきた。創業以来根底にあるのは、地域密着と社会貢献の精神であり、これを裏付けるのが経営理念の「感謝と奉仕」「総員経営」「人間尊重」「創造力の発揮」である。

地域に寄り添う取り組みの代表例が、移動スーパー「とくし丸」である。サンリブと委託契約を結んだ販売パートナーが小型特殊車両で顧客の自宅を訪問し、対面で商品を販売する仕組みだ。現在は北九州市とその近郊、福岡市、大分市、別府市、熊本市の一部エリアで事業展開。

事業の目的は、買い物弱者支援と見守りによる「命を守る」、地域スーパーとしての役割である「食を守る」、地域社会型の仕事創出による「職を作る」の3点。荷台には約400品目、1,200~1,500点の商品を積み、1軒1軒の対面販売で会話を交わしながら、様々な要望に応える“御用聞き”としての役割を果たす。特に買い物が難しい高齢者にとって、生鮮食品を手にとって選べる安心感は大きい。また、販売パートナーが見守りを行う中で救助につながった事例もある。

買い物サポートとしては、店舗で購入した商品を当日中に届けるサービス「くらしらく便」の利用も年々増加。売場のプロが選びご自宅へお届けするネットスーパー事業も好調で、高齢者から子育て世代まで、生活スタイルに合わせて選べる多様な買い物の形を提供している。



「とくし丸」での販売の様子

SDGsの推進と働きやすい職場づくり 女性が多い職場環境で全従業員の活躍を推進

サンリブグループは「サンリブSDGs行動宣言」を掲げ、省エネやクリーンエネルギー活用、CO₂・食品ロス・プラスチック削減、リサイクル、働き方改革などに注力している。使用済み食品トレーなどの回収で得られる収益は、地域の自治会やフードバンク団体などに寄付。幼稚園にトマト苗を寄贈し、収穫後に一緒に料理を行う食育活動のほか、北九州市や宗像市など複数の自治体との地域活性化に関する包括連携協定等、地域に喜ばれる取り組みを幅広く展開している。

パートを含む従業員約5,500人中約4,000人が女性という職場環境のなか、管理職に占める女性比率11%以上、年次有給休暇取得率80%以上を目標に掲げる。全従業員の働きやすさを重視し、半日有給休暇制度や、連続取得できる「おこもり休暇制度」も導入した。今後も人と人、地域とのつながりを大切にしながら、地元で愛される店舗づくりを進め、“買い物に行く楽しみ”を生むスーパーマーケットを目指していく。



店内売場

株式会社サンリブ
代表取締役社長 眞田 義文 氏
本社：福岡県北九州市若松区本町2丁目17番1号
ベイサイドプラザ若松2F



ホームページ

